

# 天竜舞台、人や妖怪の日常描く

## まるかわさん 漫画発行を報告

「よろずの候」第2巻を手渡す  
まるかわさん(左)＝浜松市役所で



浜松市在住の漫画家まるかわさん(左)が二十二日、市役所を訪れ、天竜区を舞台にした単行本「よろずの候」第二巻(新書館)の発刊を鈴木康友市長に報告した。昨秋、自身初の単行本として発刊した第一巻に続く作品。遠州弁や風景など、地域の特徴を多く盛り込んでいる。

磐田市出身のまるかわさんは静岡文化芸術大を卒業後、図書館などで勤務。二〇一六年にウィングス・マンガ大賞で作品が佳作となり、デビューした。

「よろずの候」は人間と妖怪、神様の日常を描いたオムニバス漫画。七月下旬に販売開始の第二巻は、各話の間に天竜区にある道の駅などをイラストで載せた。

久間中をモデルにした校舎が出てきたり、二俣まつりにまつわる話も。いずれも現地で取材したという。まるかわさんは第一巻が好評だったことを伝えると、鈴木市長は「素晴らし

い。第三巻を期待しています」と述べ、題材の参考として天竜区でのアワビの養殖などを紹介した。

まるかわさんは取材に、第二巻に向け準備を始めているといい「養殖はヒントになった。実際に足を運び、取材したい」と話した。第一巻は全国の書店などで販売中。税抜き六百五十円。(原一文)

2019.8.23

中日新聞(朝刊)P.16